

平成24年度香取市小中学校「標準学力調査」結果概要

香取市教育委員会

【中学校 第2学年】

[調査結果]

平均正答率 (%)

教科	目標値	香取市平均	目標値との差	全国平均
国語	63.6	64.6	1.0	64.9
社会	53.0	55.3	2.3	53.2
数学	59.3	55.8	▼3.5	58.9
理科	60.6	63.6	3.0	62.7
英語	53.3	52.8	▼0.5	53.4

[全体的な傾向]

社会と理科は、市平均正答率が目標値と全国平均をともに上回ったが、数学と英語は、ともに下回った。全体として、学習の実現状況はやや課題がある。

[国語科における主な課題（○）及び改善例（・）]

- 【話し合いの内容の聞き取り】話し合いの場面で、話し方の工夫を聞き取ったり、発表の意図を捉えて内容をまとめたりすることに課題が見られた。
 - ・ 発表学習を行う際には、発表の内容だけでなく、発表の仕方の工夫についても聞き取ることを指導したい。また、発表の内容を整理するには、話し手の意図を捉えて、的確にまとめることが求められる。話し手が何を根拠としてどのような意見を述べているのか、確認しながら話し合いの活動を進めていきたい。

- 【漢字の読み書き】漢字の読み書きでは、「規律」「模型」を書くことに課題が見られた。
 - ・ 近年パソコンやメールなどが普及したことにより、日常よく使われる漢字であっても、いざ書くとなると書けないことが多い。実際に漢字を書かせる指導を多く取り入れ、間違いやすい漢字については、取り立てて指導することが大切である。

- 【資料と話し合いの内容の読み取り】資料と話し合いの内容の読み取りでは、グラフから読み取れる傾向をまとめたり、資料に足りない部分を指摘して意見の根拠としたりすることに課題が見られた。
 - ・ 新学習指導要領の言語活動例として、新聞やインターネットなどを活用して情報を比較することが挙げられている。日頃から、目的に応じて情報を読み取ったり、読み取った情報をもとに意見を交換したり、要点をまとめたりする活動を取り入れること

が大切である。その際、どの資料から何が読み取れるのか、一つ一つ整理させ、それらを相互に関連づけて活用できるようにすることが必要である。

○【作文】作文では、三段落構成で書いたり、第二段落に理由を書いたりすることに課題が見られた。

- ・ ここでは、第一段落に「自分の考え」、第二段落に「理由」、第三段落に「まとめ」を書くことが求められている。三段落構成にはいくつかのパターンがあるので、書く練習を繰り返し行い、基本的な書き方に習熟させる必要がある。

〔社会科における主な課題（○）及び改善例（・）〕

○【世界の諸地域（北アメリカ）】資料から北アメリカ州の断面図を読み取ったり、工業の移り変わりについて考えたりすることに課題が見られた。

- ・ 世界の地域の状況を指導する際には、地球儀で地球上の位置を確かめさせ、地図帳などの資料を活用して学習を進めていくことが大切である。ここでは、北アメリカ州の地形の特徴を土地の断面図に表して考えさせたり、地域別工業生産額割合の変化に着目させたりし、北アメリカ州の地域的特徴を理解させたい。

○【日本の諸地域（自然環境）】主題図から土地利用の変化を読み取ることに課題が見られた。

- ・ 土地利用の状況を表した2つの主題図を比較して、その変化を読み取る問題である。日頃から、複数の地図を読み取ったり比較したりする経験を積ませ、どの地域でどのような土地利用がなされているのか、また土地利用のされ方がどのように変化しているのか、生徒自身に考えさせ、まとめさせることが有効である。

○【ヨーロッパ人との出会いと全国統一】豊臣秀吉が行った太閤検地について理解することに課題が見られた。

- ・ 太閤検地とともに行われた政策を問う問題だが、きちんと理解されていない様子が見える。太閤検地により複雑な土地所有関係が整理され、また物差しや升の統一により、全国の土地を統一した基準のもとに掌握できるようになったことを、丁寧に指導したい。

○【江戸時代】江戸幕府の外交について理解したり、江戸時代の日本各地の結びつきについて資料をもとに考え、表現したりすることに課題が見られた。

- ・ 概して外交の歴史は、知識が定着しにくいところである。各時代において、どの国とどのような交流があり、日本にどのような影響を与えたのか、一度きちんと整理しておく必要がある。また、日本各地の結びつきについても、地図資料などを活用し、

理解を確実なものにしておきたい。

[数学科における主な課題（○）及び改善例（・）]

- 【連立方程式】連立方程式を利用して文章問題を解くことに課題が見られた。
 - ・ 2けたの整数の十の位と一の位をそれぞれ x , y と置き、連立方程式を解く問題である。無解答率は 50.1%と、極めて高かった。連立方程式の文章問題を解くにあたっては、問題の内容を把握し、何と何が等号で結ばれているのかを考えさせる必要がある。その際、文中の数値に印をつけさせたり、単位に着目させたりし、何についての式を立てているのか、また左辺と右辺で等号が成り立つかどうかを確かめさせることが大切である。

- 【1次関数】1次関数と図形の融合問題や、具体的な事象を1次関数に表すことなどに課題が見られた。
 - ・ 1次関数を指導するにあたっては、グラフの傾きや切片の意味、グラフ上の特定の点の意味などについて考えさせることが大切である。その上で、グラフの傾きや切片からその特徴を読み取ることや、グラフの特徴を的確に説明することを指導したい。
 - ・ 1次関数と図形の融合問題では、図形を回転させた時にどのような立体ができるのか、あるいは図形の辺上を点が動いた時にどのような面積変化が見られるのかなど、具体的なイメージを持たせることが大切である。視覚的な教材を活用し、事象のもつ数学的な性質に興味・関心を抱かせるようにしたい。

- 【証明】合同な図形をかくことや、三角形の合同を証明することに課題が見られた。
 - ・ まずは三角形の合同条件をきちんと押さえる必要がある。その上で、仮定・結論・証明の位置づけを確認し、根拠を明確にしていくことを指導したい。図形の合同を証明する際には、「どの性質によって導かれるものなのか」という証明の根拠を、常に意識させることが大切である。

[理科における主な課題（○）及び改善例（・）]

- 【化学変化】水素による酸化銅の還元を化学反応式で表すことに課題が見られた。
 - ・ 酸化銅の還元は、酸化と還元の学習の代表的な実験であるので、しっかりと定着させておく必要がある。実験結果を整理する場面では、化学式や化学反応式についてもきちんと習得させておきたい。

- 【動物の分類・生物の変遷と進化】始祖鳥の特徴から動物の分類を考えることに課題が見られた。

- ・ 動物の分類については、それぞれの特徴を把握させておくとともに、日頃から資料集や図鑑などを活用し、身近な動物がどの類に属しているのか、具体的に説明していくことが大切である。こうした指導は、多様な生物が共に生きていることを生徒に知らせる上でも重要である。

○【電流と磁界】磁石のまわりと、コイルのまわりにできる磁界の向きを理解することに課題が見られた。

- ・ 磁石のまわりにできる磁界の向きは、N極からS極であり、コイルのまわりにできる磁界の向きは、電流の向きに対して右ねじをまわす向きである。コイルがU字形磁石の間を通っている場合、力の向きは磁界を強め合う側から弱め合う側へと動く。電流が磁界を作り出すことや、磁界中のコイルに電流を流すと力がはたらくことについては、図解するなどしてしっかりと理解させておく必要がある。

[英語科における主な課題（○）及び改善例（・）]

○【リスニング（内容理解）】英文の聞き取りでは、要点（部員数）を聞き取ることに課題が見られた。

- ・ クラブ紹介の英文を聞き、質問に答える問題だが、30と13を聞き違える誤答が多く見られた。数の聞き取りは、第1学年からの課題であるが、第2学年においても苦手とする生徒が多い。数を使った対話練習を行うなどして、習熟を図りたい。また、問題で問われている箇所を聞き逃してしまう生徒に対しては、質問文に先に目を通させ、あらかじめ聞き取るポイントを押さえて聞き取らせることも有効である。

○【3文以上の英作文】英作文では、将来なりたい職業や、やりたい仕事について、まとまった3文以上の英文を書くことに課題が見られた。

- ・ 与えられたテーマに沿って3文以上で書くことができた解答が35.1%あり、無解答率は23.4%であった。また、want to ~を使った英文を書いたり、具体的な説明ややりたい理由を書いたりすることができた解答も、半数に満たない状況であった。wantやto不定詞を使った表現に習熟させるとともに、ライティングを宿題に課すなど、日頃から英文を書く機会を多く設定することが大切である。